

## 知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画 第二期計画（2022～）策定に向けた論点

### ■第2期計画の策定へ向けた検討事項

基本的な枠組み（各モニタリングの手法や体制等）は第1期計画を維持しつつ、以下の点についてR3年度中に見直し、結果を第2期計画に反映させる。

#### （1）37モニタリング項目（特に評価基準）と8評価項目の対応関係 ⇒主に各WG・APで見直し検討

##### ①各モニタリング項目の「評価基準」は、評価項目の評価と明確な関係性がある内容か

- ・No.6（海鳥の営巣数）の悪化の要因が観光船利用であるかは不明であり、現状で評価項目Ⅶ（人為的活動と自然環境保全の両立）の評価に対応させることは困難
- ・評価項目Ⅷ（気候変動影響の早期把握）に対応する各モニタリング項目の評価基準が、影響把握のための指標として適切かは全体的に見直す必要（別紙参照）

##### ②各モニタリング項目の「評価基準」は、遺産管理の努力で達成できる内容か

- ・No.18（オショロコマ・外来種の生息状況）の評価基準には「外来種（ニジマス）の根絶」や「水温上昇しないこと」が含まれ、管理努力による達成は非常に困難

→以上の観点を各WG・APで見直し、必要に応じて「評価基準」の変更又は評価基準を設けない基礎情報としてのモニタリングとすることなどを検討。

※この際、「実施・評価が容易」、「変化の予兆をつかめる」という基本的考え方に留意。

※継続性の観点から、評価指標やモニタリング手法は原則として変更しない。

#### （2）8評価項目の5段階（数値）評価の方法

⇒（1）の結果も踏まえ、主に科学委員会で見直し検討

##### ①評価項目の5段階評価にあたり、対応するモニタリング項目が未実施のものや、対応関係が不明瞭な項目をどのように考慮（算定）すべきか

- ・第1期では、未実施だったモニタリング項目（No.1、14、26）も数値化して算定したため、「実施有無」と「実施結果」が混在した評価になった。
- ・第1期では、情報不足の項目は評価値を減らすなどの調整を行ったが、評価項目との対応関係の明確さなども考慮して配点の重みづけを検討すべきか。

##### ②評価項目の5段階評価にあたり、対応するモニタリング項目の評価を複数WGで分担している場合の調整方法

- ・例えば、Ⅶ（人為的活動と自然環境保全の両立）に対応するNo.6（海鳥の営巣数）は、主担当である海域WGでの評価に加え、エコツーリズム・適正利用WGでも検討。

## 第二期長期モニタリング計画（2022～）策定に向けた論点に関する 令和3年度 第1回科学委員会での主な意見

### <評価項目とモニタリング項目の対応関係整理について>

- ・現状の長期モニタリングの評価は、世界遺産の登録基準（クライテリア）が維持されているかという点と、世界遺産地域の管理状況が適切かという点が混在。地球温暖化による課題など知床における管理だけで対処できないことは分けて評価すべき。
- ・遺産管理の努力による評価基準の達成が不可能とされた項目についても、それでモニタリングを止めるということではなく、知床の状況把握のためモニタリング自体は継続して行うべき。モニタリングの目的をきちんと峻別した上で評価していくことが必要。
- ・海鳥の営巣状況に係るモニタリング結果を、レクリエーション利用（評価項目Ⅶ）に対するシグナルとして用いることは可能。ただし、海鳥の減少というシグナルが得られたら、「それはレクリエーションによるインパクトなのか」を検証することが必要。
- ・一方で、海域WG・エコツーリズムWGともに海鳥とレクリエーション利用の関係性を評価できるデータは把握しておらず、評価のための調査・解析も容易ではない。このため、関連WGで連携しつつ入手可能なデータを長期的に把握していくことで、できる限りの解釈をしていくしかない。

### <気候変動の影響把握に関するモニタリングについて>

- ・①気候変動の兆候（気象観測データ）があるか、②個々の生物種の応答（個体数、分布、生物季節等）に気候変動によるものと考えられる変化があるか、③群集組成や種多様性に気候変動によるものと考えられる変化はあるか、という観点でモニタリング項目の再検討を行うべき。
- ・現行計画でも気候変動の影響把握（評価項目Ⅷ）に対応するモニタリングは設定されているが、十分とは言えない。ただ、今から新たな調査を開始して10年間実施していくということではない。既存のデータがあり、かつ今後もデータが蓄積されていくものを活用していく、という点が重要。

### <総合的な評価の方法について>

- ・順応的管理のために評価項目を設定し、各モニタリング項目に評価基準を作り、点数を付けたうえで8つの評価項目を評価する際にはその点数を平均化する、というやり方で本当によいのか。モニタリングの位置づけ全体的に整理するとなると、今の長期モニタリング計画の構造自体を変えないと難しいのではないのか。